

ICID を通じた情報発信

農村振興局海外土地改良技術室 内藤久仁彦

2009 年 4 月に ICID 日本国内委員会事務局長を拝命し、ほぼ 3 年が経過しました。この間、ニューデリー、ジョグジャカルタ、テヘランでの会議に参加する機会を得ましたが、日本国内委員会からは毎回 10 名以上の委員の方々にご参加いただき、様々な部会、委員会等で重要な役割を果たしていただいております。この場を借りて、委員の皆様ならびに ICID での活動を支えていただいている協会会員の皆様に感謝申し上げます。

我が国は、国際的な水議論の場において、乾燥地域を対象とする欧米流の視点に対抗するため、アジア・モンスーン地域の国々が連携して情報発信を行う場となるアジア地域作業部会において主導的な役割を果たしています。

我が国は、2007 年のアメリカ・サクラメント会議において、アジア地域作業部会での気候変動への適応策の検討を提案し、それを受ける形で部会内に「アジアにおける気候変動に適応したかんがい排水の戦略」を策定するタスクフォースが設けられました。このタスクフォースでは、太田信介委員（日本 ICID 協会会長）が議長を務め、2008 年から活動を行ってきました。

この作業は、第 1 フェーズとして、アジア、オセアニアの 29 カ国に、これまでのかんがい排水に関する基本施策、気候変動に対する政策や対応方針、研究状況等に関するアンケートを実施し、その結果を、各国の自然条件や社会条件を基に分類、分析し、取り組んでいる政策等の類似性の分析を行いました。続く第 2 フェーズでは、アジア 12 カ国から気候変動に対する詳細な取組事例を収集し、問題解決の鍵となる部分（Keys for success）を抽出して各国の技術者、政府職員、研究者等が活用できる指針としてとりまとめました。作業は太田信介委員を中心に、多くの国々との情報交換を経ながら独自の視点の下にとりまとめられた力作であり、多くの国の行政官や研究者に役立つ、実用的なガイドブックとなっています。

この作業の結果は、昨年 10 月のテヘラン会議において、アジア地域作業部会だけでなく、「土地・水資源への気候変動の影響に関するシンポジウム」など、計 4 回発表され、多くの参加者に情報発信することができました。このシンポジウムのコーディネーターを務めたマドラモト ICID 会長からは、その内容について高い評価が述べられるとともに、太田信介委員の献身的な活動に対し謝意が述べられました。

また、この成果は、3 月に開催される第 6 回世界水フォーラムでも発表することが執理事務会で確認されました。日本のプレゼンスを大いに示すことができたと思います。

太田信介委員は、2008年からICID副会長としても精力的にご活躍されました。テヘラン会議で副会長の職務は任期満了となりましたが、副会長を務められたこの3年間は、アジア地域作業部会でのご活躍ばかりでなく、ICID事務局の運営に関しても建設的な提案を行い、日本のプレゼンスを大いに高めていただきました。

テヘラン会議では、会長に中国のGao氏、太田委員の後任の副会長に韓国のKim氏が選出されました。韓国は2014年のICID総会の開催も決まっています。ここ数回の会議では、日本国内委員会の委員の方々が、多くの部会において司会者やコメンテーターとして真摯にかつ主体的に活動され、実質的な貢献をされている傍らで、中国、韓国の両国は大代表団を派遣し、ロビー活動を行っていました。これからしばらくは、中国、韓国が目に見える成果を求めているいろいろな提案をしてくると思われるかもしれませんが、日本としては東アジアの一員としてこれらの活動に協力もしながら、日本の色もしっかり出していく、という少し難しいスタンスをとることになります。

海外土地改良技術室は、ODA業務を担当していますが、近年、“Beyond Aid”(援助を超えて)が伝統的な援助国の潮流として注目されています。援助の世界も企業のビジネスの海外展開をにらんだ国益論が強調されてきています。ドイツや英国は新興国(インド、ブラジル、南アフリカ等)とのパートナーシップを明確に打ち出すとともに、これらの国々と組んで他の途上国支援を行っています。私もICID等の国際会議に毎年参加することで、ODAの世界だけでは接点のない多くの国々の人と知り合う機会ができましたが、アジア新興国のエネルギッシュな活動ぶりには驚かされることが数多くあります。中国はもちろんのこと、韓国やタイも新興ドナーとして途上国支援を行っています。

ICIDは、100カ国以上が加盟する大きな組織であり、日本が様々な情報発信をおこなっていくための大変重要な場であると考えています。今後も、日本がアジアの新興国とパートナーシップを築きながら、かつ、リーダーシップを発揮して、気候変動などのグローバルな問題や途上国支援に貢献していけるよう、ICIDにおける活動を引き続き積極的に進めていきたいと考えています。